

科目名	英文講読2	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	堀川 祐里		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	(1-3年)X-21-A-2-320274, (4年)X-21-B-2-320273		国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体的問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること		
授業の目的	<p>英語を用いて経済学に関する様々な文献を読むことにより、世の中にある様々な情報媒体から経済に関する知識を自分で得たうえで、批判的に思考できるようになることが本授業の目的である。          経済学にもいろいろな分野があるが、本授業では、主に経済学史の分野から、代表的な経済学者の学説を英語で学んでいく。さらに、受講生が現代社会の経済に関するニュースに親しむことが出来るようにするため、英語で書かれた新聞や雑誌からも、経済についての記事を読んでいく。</p> <p>授業では、毎回、出席者をランダムに指名して英文の和訳を発表してもらう。          前週には文献資料を配布するため、1週間のうちに予習をしていくこと。          また、理解度の確認のため、授業内ではグループワークをおこなったり、ポータルのクリッカー機能を用いてのリアクションペーパーや小テストをおこなったりする。          本授業は、教員が一方的に話す講義形式ではなく、履修者が積極的に参加することで進められていくため、そのことに留意して履修を検討すること。</p> <p>用いる文献の英語の水準は基礎的なレベルとなるが、履修にあたっては、経済学の基礎が身につけられていることが求められる。          発展的水準科目のため、「日本経済論」、「社会福祉論」、「日本経済史」のいずれかを履修済みでない場合、理解が難しい。これらの科目を2021年度前期までに履修済みでない場合には、以下の【予習】・【復習】に記載している内容以上の“量”・“質”の自己学習を必要とするため、自己学習の方法について速やかに担当教員に相談すること。</p> <p>将来、社会人として仕事に就いたとき、日本経済はもちろん世界経済についても自分で情報を得て批判的に考えられるようになるために、本授業では英語で経済学を学ぶ機会を持ち、社会人として自立する力を身につけてほしい。</p>				
学修到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、経済学に関する基本的な用語を英語で理解することができる。</li> <li>2、経済学の学説について、英語でその論点を読み取ることができる。</li> <li>3、授業で学んだ経済学に関する知識を、自分の生活に関連付けて自分の言葉で論じられるようになる。</li> </ol>				
実務経験との関連性					

授業計画	
第1回	オリエンテーション：授業計画、成績評価、注意事項等に関する説明。
第2回	Cool Heads and Warm Hearts①
第3回	Cool Heads and Warm Hearts②

第4回	The Invisible Hand①
第5回	The Invisible Hand②
第6回	Workers of the World①
第7回	Workers of the World②
第8回	Down the Plughole①
第9回	Down the Plughole②
第10回	英字新聞・雑誌から読み取る日本経済①
第11回	英字新聞・雑誌から読み取る日本経済②
第12回	英字新聞・雑誌から読み取る日本経済③
第13回	英字新聞・雑誌から読み取る日本経済④

第14回	英字新聞・雑誌から読み取る日本経済⑤
第15回	英語で学ぶ経済学のとまとめ
第16回	定期試験

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間。配布した資料の英文について和訳してくる。授業当日は、出席者をランダムに指名して和訳の発表をしてもらう。また、新聞やニュース等で報道される経済に関する話題にアンテナを張り、情報収集を心がけること。自分が気になった事柄について、英語でどのように表現するか調べてみる。
【復習】時間・内容	2時間。毎回の授業で扱った範囲についてはその都度復習を行い、必要がある場合には教員に質問し、疑問点を解決しておくこと。講義は前回までの授業の理解を前提に進んでいく。そのため、前回学習した内容についてよく復習し、次の授業までに疑問を解決する（ないし、教員に質問をする準備をする）ことが、学習効果を上げることに繋がる。授業内では、理解度の確認のため、グループワークをおこなったり、クリッカーでのリアクションペーパーや小テストをおこなったりする。

成績評価	
評価基準・方法	3種類の評価方法の総合評価であり、その内訳は、定期試験50%、授業内での和訳30%、その他20%である。 ※定期試験は持込不可とする。 ※授業内での和訳は、ランダムに指名する。必ず予習をおこなっておくこと。 ※その他として、授業内でのリアクションペーパーや小テスト、グループワーク等の課題を行う。
フィードバック方法	授業内で課題を行った場合には、代表的な意見を取り上げて講評を行う。なお、個別の質問に対しても、適宜対応する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート/グループワーク/プレゼンテーション
教科書/参考書	教科書は用いず、毎回の授業で配布するレジュメ、資料、参考文献等に基づいて講義を進める。受講生には「メモ」をとることを習慣づけ、自分だけのノートを作成していくことを心がけてほしい。なお、ポータルサイトでの資料配布をおこなうため、授業の前にはポータルサイトを確認し、適宜資料の印刷を行っておくこと。
受講上の留意点等	<p>授業に関しての詳細や注意事項は初回の授業で説明するため、この講義の受講の意思がある場合、また受講するか否かを検討している場合には、原則として第1回目の授業に出席すること。</p> <p>とくに、発展的水準科目のため、「日本経済論」、「社会福祉論」、「日本経済史」のいずれかを履修済みでない場合、理解が難しい。これらの科目を2021年度前期までに履修済みでない場合には、【予習】・【復習】に記載している内容以上の“量”・“質”の自己学習を必要とするため、自己学習の方法について速やかに担当教員に相談すること。</p> <p>皆勤が原則であるため、出席自体は評価の対象とはならないが、授業では自分で「メモ」を取ることを重要視している。また、授業内に実施する「その他」としての課題に積極的に取り組むことが必須である。</p> <p>「成績評価」に記しているように、定期試験だけを受験して満点を取っても、授業内でおこなう和訳、その他の課題での得点がない場合は、単位が付与されないで注意すること。</p> <p>なお、各回の授業内容は受講生の理解を促進するために、順序を入れ替えることがある。また、受講生自身に和訳をおこなってもらうことで授業が進行するため、和訳の進度によっては、授業内容が変更されることがある。</p> <p>最後に、授業中、他の受講生の迷惑になる行動については慎むこと。</p> <p>特に私語は厳禁とし、私語を行っている受講生には教員が退室を促すことがある。</p> <p>この講義は、授業全体を通して受講生が社会人として活躍する将来を展望して展開される。受講生には「大人」としての振る舞いを求める。</p>
JABEE	